

## 8 日本語で面接を受ける

### POINT 1 面接を受けるとき、何に気をつけますか。



**POINT 1** のねらいは、日本で面接を受ける場合の社会文化知識を学ぶことです。面接の種類によって適切な服装も変わります。ここで挙げるものがすべての面接に当てはまるものではないことを確認してください。また、**①** の服装については、学習者に強要するものではありません。

#### ① 面接にふさわしい服装をする

- 左のイラストから順に、以下の「ふさわしくない」点を確認してください。

一番左の女性 : ノースリーブを着ている。パーティへ行く格好のようだ。

二番目の女性 : 今の服装はカジュアルすぎる。上に襟付きのジャケットを着て、靴を変えればOK。

三番目の男性 : ひげを剃っていない。髪がボサボサ。シャツがズボンからだらしなく出ている。全体的にだらしないイメージ。

一番右側の男性 : 半ズボンを履いている。素足を出すのはよくない。帽子をかぶっている。パーカーなどのカジュアルな上着を着ている。

- ①** は、ステレオタイプの面接用の服装を学習者にさせることが目的ではありません。同じ面接でも、アルバイトなどの面接であれば、「ネクタイにスーツ」でなくてもいいと思います。
- 面接にかぎらず、「式」のようなフォーマルな場面での服装に言及してもよいでしょう。例えば、「卒業式」「結婚式」「お葬式」などの式に着ていく服や服の色についてなどにも話題を広げることができます。特に、国によっては開催する習慣がない「入学式」や「入社式」には触れておいたほうがいいでしょう。
- イラストは大まかに気をつけるポイントを指摘するためのものです。細かい描写に捕われずに、話し合いのきっかけに使ってください。

#### ② 面接の時間より早く行く

- イラストから、面接会場に行く時間について、なぜ右側が○なのか、ポイントを確認してください。
- 面接のようにフォーマルな場面では、日本で期待される時間感覚を守ったほうがよいので、具体的な例を挙げて確認してください。例えば、**①** の服装のところでさまざまな「式」について取り上げた場合には、ここでも再度、それぞれの「式」で期待される到着時間について確認するといいいでしょう。
- 面接にかぎらず、日常生活の中のさまざまな場面で期待される到着時刻には文化差があります。教室に入る時間、アルバイト先に着く時間、待ち合わせ時間など、学習者が日常生活の中で遭遇する「到着時間」について話題を広げるといいでしょう。例えば、5時からアルバイトの場合、5時にアルバイト先に着くように行くのか、5時から仕事ができる態勢を整えるため、5時前に着くように行くのか、などの点で、

文化差や個人差が出てきます。

### 3 自分の履歴書をもう一度見て、面接の準備をする

国によって面接で聞かれる内容などが異なります。できれば、動画などで日本の面接の様子を見せ、面接をしている最中も履歴書を読まれること、履歴書に基づいて詳しく質問されることを確認してください。そうすることで、自分の履歴書を改めて見ておくことが、面接の準備になることを学習者に理解してもらうといいでしょう。

#### **練習1** 「履歴書」を書きましょう。

- 付属 CD-ROM 収録の『じゅんぴシート 履歴書』を使って、学習者自身の履歴書を書かせてください。
- CD-ROM には見本の履歴書も入れていますが、関東圏の交換留学生という前提で書いています。必要に応じて学習者の環境に合わせた見本を準備してください。
- 出身校の日本語表記が難しいこともあります。これを機会に自分の国や町、大学名が日本語ではどのように表記されるのかを確認するといいいでしょう。
- 住所の書き方、年号などは履歴書にかぎらず、日本の役所の書類などに記入する際に必要となります。**練習1** をしながら、学習者が自分の住所、生年の和暦（年号）などを書けるようにしてください。
- 日本では義務教育やそれに続く高等教育の形がある程度、画一的となっています。履歴書と関連づけて日本の学校教育について紹介する機会にするのも一案です。学習者の出身国によっては、義務教育であっても学校には通わずに通信教材を自宅で学習することなどもあります。海外では教育の形態がかなり多様であることも、教師のほうで留意しておく必要があります。

## **POINT 2** 面接の部屋に入るときや入ったとき、どうしますか。



**POINT 2** のねらいは、面接が行われる部屋に入るときから、面接が始まるまでに期待されている挨拶や態度についての社会文化知識を学ぶことです。

ここは面接の部屋に入ってから面接が始まるまでの一連の動作について、教科書の中でイラストを使って説明しています。これが唯一の正解というわけではありません。

学習者も身体を動かして実際にやってみることが大切です。

### 1 面接の部屋に入るとき

### 2 ドアを開けたら…

### 3 部屋に入ったら…

#### 4 面接官の前に着いたら…

##### **練習2** 「失礼します」「すみません」の練習をしましょう。

「すみません」を使う場面例：

物を壊したとき／遅刻したとき／足を踏んだとき／間違えて名前を呼んだとき店で店員に話しかけるととき／隣の人にノートを見せてもらうとき／カメラのシャッターを押してもらうとき

「失礼します」を使う場面例：

先生の研究室に入るとき／いすを勧められて座るとき／他の人がいるところで携帯電話で話し始めるとき

- 来日して間もない学習者は、日本人がどのような場面で「すみません」や「失礼します」を使うかがわかりません。宿題にして、日本人に聞いて来させるようにして使うといいと思います。
- 2人1組になって、「すみません」や「失礼します」の場面の寸劇をさせると盛り上がります。
- 「すみません」は相手に負担をかけるときに使います。相手に対して謝るときの他、自分の用事で人の注意を引く場合、相手が自分のために何かをしてくれた場合などにも使います。
- 謝罪の表現の「すみません」と「ごめんなさい」はどう違うかの質問が出るのがよくあります。「すみません」は、面接のようにフォーマルな場面で使い、カジュアルな場面では使わないことなどを説明してください。

#### **POINT 3** 面接官と話すとき、何に気をつけますか。



**POINT 3** のねらいは、面接場面にふさわしい受け答えの知識を学ぶことです。面接官が知り合いであっても「場」や「状況」によっては、いつもより改まった言語行動が期待されることにも注意を向けてください。

1～5の正解は以下の通りです。「コツ」のところに正解の解釈が書いてありますので、補足説明を加えながら確認してください。

##### **1** 単語で答えないで文で答える

答え：c. カナダのオタワです。

##### **2** 省略しないで答える

答え：c. はい。週末、パン屋で働いています。

**3** 適切な長さで答える

答え：20 秒

**4** 答え方を工夫する

答え：b. のんびりした性格のところだと思います。

**5** 面接官の質問の意味をよく理解して答える

答え：b. 日本人や他のいろいろな国の人といっしょに勉強できたことです。  
自分の視野が広がったと思います。

**6** 難しい質問をされたときの答え方を練習しておく

答え：d. そのような難しいことは、まだ考えたことがありません。申し訳ありません。

ここは、その場で少し考えれば答えられるようであれば、cのように言うこともできます。考えたことがないような難しい質問の場合には、的外れなことを答えるよりも、素直に答えられないと伝えることが大切です。

**練習3** 1分間で話しましょう。

- この練習は、その場で急に答えることはできません。必ず、あらかじめ紙などに原稿を書く時間を作ってください。
- 教科書では、**3**の直後に書いてありますが、**1**から**6**まで終わったあとにこの練習をしても構いません。
- ここでは、学習者がある程度まとまりのあることをモノログで話す機会を与えられたことを想定しています。そのため、1分間としています。

**練習4** 「面接準備シート」を作りましょう。

- 面接の目的によって想定される質問が異なります。**練習4**をする前に、学習者が実際に受けそうな面接の状況を教師が設定してください。
- 母国でアルバイトなどをしたことがない学生や面接を受けたことがない学生がいます。その場合には、質問がまったく思い浮かばないことがあります。そのようなときは、どんな質問が考えられるか日本人に聞いてくることを宿題にしてください。
- 付属 CD-ROM 収録の『面接準備シート』に必要事項を書かせます。

## POINT 4 質問がわからないとき、どうしますか。



POINT 4 の目的は、フォーマルな場面で相手に聞き返すときの表現を確認することです。

答え：d. すみません。日本語がよくわからなくて……。もう一度、お願いします。

初級学習者の場合には「b. すみません。もう一度お願いします」で精一杯だと思います。外国人に慣れていない面接官の場合、抽象的な質問をしたり、難しい言い回しで質問をすることがあります。質問がわからない原因を解決するために、やさしい日本語に言い直す必要があることを面接官に伝えないと、質問を何度も言い直してもらっても「質問がわからない」状態から脱することができません。質問がわからない原因が何であるかを示した上で、もう一度、質問を繰り返してもらおうようにすることが大切です。

## POINT 5 面接が終わったとき、どうしますか。



POINT 5 のねらいは、面接が終って部屋を出るまでに期待されている挨拶や態度についての社会文化知識を学ぶことです。

ここでは面接が終ってから部屋を出るまでの一連の動作について、教科書の中でイラストを使って説明しています。これが唯一の正解というわけではありません。学習者も身体を動かして実際にやってみることが大切です。

- ① 面接官が「面接は以上です」と言ったとき
- ② いすから立ち上がったとき
- ③ ドアのところへ行ったとき
- ④ 部屋を出るとき